令和６年度賛助会員募集中！

当財団は、住民・企業・行政が力を合わせて、美しい京都のまちを守り育てていく、パートナーシップのまちづくりを推進しています。
活動趣旨に賛同していただける方を賛助会員として募集しています。

年会費　個人１口　**5,000**円　団体１口　**50,000**円

入会をご希望の方は、当財団にお問合せいただくか、ホームページをご覧ください。

賛助会員お申込みのご案内ページはこちら
https://kyoto-machisen.jp/partner/

※当財団の賛助会員は、公益財団法人に対する寄附として、税の減免措置を受けることができます。

特典1　ニュースレター「京まち工房」の送付
特典2　各種セミナー・イベントのご案内（随時）
特典3　当財団ホームページへのバナー掲載（団体会員のみ）

令和５年度は下記の皆さまにご入会いただきました。ご支援ありがとうございました。

【個人会員】（五十音順、敬称略）
網野正観、板原征輝、伊藤正人、稲木藍、井上信行、井山和男、岩﨑清、上原智子、畝博之、江田頼宣、大路健志、太田昌志、岡田耕介、岡本正二、奥美里、小田厚子、梶山真樹、門川信一郎、金本鉄守、川口浩、河﨑尚志、川本淳一、北川洋一、木股博一、束海賢一、木村忠紀、木村泰之、桑原尚史、小嶋新一、小西吉治、坂本正壽、佐藤友一、真田松寿、鮫島恵子、柴崎孝之、島田和明、清水博之、杉崎和久、炭崎勉、関岡孝繕、髙川祐子、髙木伸人、髙木勝英、髙木貴子、高田聡、田中照人、谷口一朗、谷口雅紀、谷村寧昭、玉山千映子、玉山秀文、辻勇治、恒成恒、寺澤昌人、寺島彰、寺田敏紀、寺田史子、寺谷淳、寺本健三、内藤郁子、中島弘益、中司小百合、中村有希、西尾由輔、西川武士、西澤亨、西村健、歯黒健夫、橋本操、旗哲也、畑正一郎、早﨑真魚、林建志、林道弘、速水孝治、平井義也、吹上裕久、藤川隆一、舟木一裕、冨名腰隆、船橋律夫、平家直美、前岡照紀、牧野忠廣、水口義晴、宮川邦博、宮本日佐美、宮脇和生、矢田部衛、柳原博實、山本耕治、吉田光一、李尚鈞、その他非公開12名

【団体会員】（五十音順、敬称略）
空き家バンク京都株式会社、大阪ガス株式会社、京ぐらしネットワーク、京都駅ビル開発株式会社、公益社団法人京都市観光協会、京都信用金庫、京都中央信用金庫、
一般社団法人京都府不動産コンサルティング協会、京町家居住支援者会議、健康不動産株式会社、株式会社ジェイアール西日本伊勢丹、住宅金融支援機構、一般社団法人相続相談センター、
株式会社地域計画建築研究所、株式会社中藏、株式会社八清、株式会社フラットエージェンシー、平安建材株式会社、株式会社都ハウジング、The Base-Mental Café 運営会、その他社名非公開１社

京町家まちづくりファンド －京町家に宿る「くらしの文化」を次の時代へ－

京町家まちづくりファンドでは、京都固有のくらし・空間・まちづくりの文化の継承と発展を目的に、平成18年度からこれまでに98件の京町家の保全・再生・活用を支援してきました。継続的な事業実施のため、皆さまのご支援をお願いします。ご寄附は、①金融機関へのお振込、②クレジットカード決済、③携帯電話料金とまとめてのお支払い、④当財団窓口での現金受付のいずれかの方法により、一口1,000円から※受付しております。
※「つながる募金」を経由した場合のみ、一口100円からご寄附いただけます。

ご寄附いただいた皆さまには
- 京町家まちづくりファンドによって改修された京町家の見学会や報告会等のご案内を差し上げます。
- お名前を京町家まちづくりファンド専用ホームページ等に掲載いたします。
- 税制上の優遇措置
（2,000円を超える額の寄附をした個人の方は、確定申告により所得税の控除が受けられます。）

詳しくは京町家まちづくりファンドWEB「ご寄附のお願い」をご覧ください。　URL ▸ **https://kyoto-machisen.jp/fund/donation/**

2023年1月～2023年12月　京町家まちづくりファンドにご寄附いただいた皆さま

皆さまのご支援に深く感謝申し上げます。

【個人】2023年　20名(非公開希望3名)（五十音順 敬称略）
荒井孝、岡田パトリック光、角川裕次、金子和宏、河﨑尚志、木股博一、髙木貴子、髙田光雄、寺田敏紀、西嶋淳、西村孝平、野間圭介、牧野忠廣、望月幸夫 、森元貴之、吉村直途、李尚鈞

【法人・団体】14団体（五十音順 敬称略）
井筒八ツ橋株式会社、株式会社魚谷繁礼建築研究所、ＦＶジャパン株式会社、株式会社大下工務店、郭巨山会所日本建築学会賞祝賀会、京都クレジットサービス株式会社、京都住文化コンソーシアム、
京果 京都青果合同株式会社、コカ・コーラボトラーズジャパン株式会社、株式会社さんけい、有限会社鈴木モータース、株式会社辻工務店、公益財団法人日新電機グループ社会貢献基金、
一般財団法人長谷川・歴史・文化交流の家

ニュースレター
京まち工房 106
公益財団法人　京都市景観・まちづくりセンター

特集 P2-3
防災まちづくり計画の実現に向けた取組（醒泉・粟田）

CONTENTS

P4 鴨川の夜間景観実証実験
P5 専門家紹介（まちづくり・京町家）／表紙イラスト作者紹介
P6 京町家で見学会・セミナー開催。
P7 私と京都／寄附受納式
P8 賛助会員募集／京町家まちづくりファンドご寄附のお願い

令和6年度賛助会員募集中！

入会をご希望の方はまちセンにお問合せいただくか、ホームページをご覧ください

賛助団体の皆様

京ぐらしネットワーク	アルパック 株式会社 地域計画建築研究所	JR ISETAN	相続相談センター
フラットエージェンシー	平安建材株式会社	京都駅ビル	京町家居住支援者会議
KYOTO CITY	株式会社都ハウジング	大阪ガス	一般社団法人 京都府不動産コンサルティング協会
八清	京都信用金庫	中藏	京都中央信用金庫
住宅金融支援機構	Sustainable Real Estate	空き家バンク京都	

ニュースレター京まち工房　第106号　2024年3月　　編集・発行：公益財団法人 京都市景観・まちづくりセンター

公益財団法人
京都市景観・まちづくりセンター
〒600-8127
京都市下京区西木屋町通上ノ口上る
梅湊町83番地の1（河原町五条下る東側）
ひと・まち交流館 京都 地下1階
TEL：075-354-8701　FAX：075-354-8704
E-mail：machi.info@hitomachi-kyoto.jp
HP：https://kyoto-machisen.jp
HP
Facebook
京都市景観・まちづくりセンター　検索

※センターへお越しの場合は公共交通機関をご利用下さい。

この印刷物が不要になれば「雑がみ」として古紙回収等へ！

公益財団法人　京都市景観・まちづくりセンターは環境負荷低減に努めています。

公益財団法人京都市景観・まちづくりセンターは、令和6年能登半島地震で被害に遭われた皆様にお見舞い申し上げます。被災地の一日も早い復興を心から願っております。

防災まちづくり、計画の実現に向けて

令和4年度に防災まちづくり計画を策定した醒泉学区・粟田学区（京まち工房103号で紹介）では、計画の実現や、防災まちづくりの更なる推進に向けて、取組が続けられています。

いつ起こるか分からない災害に対し、事前の備えと普段からの関係づくりによって、被害の軽減とレジリエンス※の向上を目指し、持続可能なまちづくりに取り組む2学区の活動と、京都市景観・まちづくりセンター（以下、まちセン）が開催した路地の防災について考える講演会の様子をレポートします。

醒泉学区（下京区）「避難所運営マニュアル改定」に取り組みました。

「被災体験座談会」

醒泉学区は、平成29年に小学校が統合され、令和2年に校舎が建て替えられましたが、避難所運営マニュアル（以下「マニュアル」）は統合前の平成26年に策定された当時のままとなっていました。当時の内容が、現在の指定避難所である下京雅小学校の学校施設や運営体制と一致していないことから、「醒泉まちづくり委員会（以下、委員会）」が中心となって、マニュアルの改定に取り組まれました。

マニュアルの改訂には、まちセンから、まちづくり専門家（スタヂオ・カタリスト 松原永季氏）の派遣を実施しました。

毎月の役員会と並行し、2か月に一度のペースで開催される委員会で内容を検討しながら、地域への共有と合意形成が進められました。また、委員会では、マニュアル改定の検討だけでなく、実際に被災し、避難所で一時待機を経験された方をお招きして座談会を実施するなど、多くの方の参加を促す工夫も行われました。

「被災体験座談会」（令和5年9月）
フランス出身で、平成17年に来日以降、2度の大きな風水害と、東日本大震災を経験したヤナ・シャルさんにご講演いただきました。発災直後の避難所の状況や、心理的な不安を和らげるためのメンタル支援の大切さなど、普段ではなかなか想像しえない体験談に関心が寄せられ、マニュアル改定を考えるうえでの材料となりました。

防災まちづくりの継続と推進

防災まちづくりを推進するため、多くの関係機関と協力しながら取組が進められています。

「防災まちあるき」（令和5年5月）
防災まちづくり計画の実践として、各町内会長・防災部長が参加し実施されました。

「マンションアンケート」（令和5年12月）
学区内にはマンションが多いため、大規模災害時のマンションと避難所との連携を模索するマンション防災にも取り組まれています。

「地域の集合場所プレートの設置」（令和5年12月～令和6年2月）
大きな地震（醒泉学区では震度5弱程度を想定）が起きた後、町内の安否確認や初期消火、救命救助に向かう拠点となる地域の集合場所プレートの設置を進めました。

「自分事として、臨機応変に対応する」を基本的な考え方として、改定が一段落したしたマニュアルは、防災訓練などを通して報告され、今後の取組に生かされる予定です。

醒泉自治連合会HP

※レジリエンス：回復力・復元力のこと。（耐久力と訳されることもある。）

粟田学区（東山区）「路地の愛称づくり」に取り組んでいます。

粟田学区では、防災まちづくり計画に掲げられている9つの計画の1つである、「路地の愛称づくり」に取り組まれています。

防災まちづくりの取組を始めた1年目に、同じ東山区にある六原学区の視察を行い、同学区で先進的に取り組まれた「路地の銘板づくり」に影響を受け、取り入れることにしました。

路地再生プロジェクトとして「粟田まちづくり協議会」が中心となり、計画策定の段階から先行して取組を始められ、今年度で2年目になります。路地に名前を付けることで、緊急通報の際、所在地を迅速・正確に伝えられるだけでなく、取組を通じて路地への愛着を高め、路地内の交流やコミュニティーの再構築を目指しています。

京都美術工芸大学の森重幸子教授のプロジェクトチームも協働で、路地のリスト化や路地の住民を対象としたアンケートを実施しています。

「路地のリスト化」（令和5年4月～）
愛称づくりの基礎資料とするため、町内ごとの路地リストを作成し、役員間で共有しました。

「アンケート調査」（令和5年11月～12月）
愛称づくりの取組への参加意向の確認と、生活空間である路地や家屋の状況調査、路地の良いところや不安な点等を調査しました。

「路地の意識調査」（令和6年1月）
学区の新春行事で多くの方が集まる機会に合わせて、路地の魅力や意識に対するヒアリングやシール投票を実施しました。

「新春行事での意識調査」

路地の安全性向上に向けた取組

「路地の防災訓練」（令和5年11月）
消防分団、自主防災会と合同で、学区内でも特に路地が集中している三条坊町西部を対象に、路地単位の防災訓練を実施しました。通報・消火器訓練・バケツリレーを児童公園で練習した後、路地内に場所を移し、実地訓練を行いました。40名近い参加があり、路地の安全性に対する意識と防災知識がさらに高まりました。

「バケツリレー」

「公園での消火訓練」

「路地内で実地訓練」

令和6年度は、路地のアンケートで取組への意欲が高かった路地や、住戸の多い路地をモデル的に選定し、愛称づくりの勉強会やワークショップを実施し、計画を少しずつ進めていく予定です。

「災害は時を選ばない」という事を改めて思い知らされた令和6年の始まりでした。

両学区とも、防災まちづくり計画は町内会加入世帯に全戸配布されています。また、防災まちづくり計画を策定された地域では、学区や京都市のHPからも閲覧できます。自分のまちが災害への事前の備えとして、どのような計画を立てているか、この機会に再度、確認してみてはいかがでしょうか。

路地の防災を考える講演会

まちセンでは、一般の方々をはじめ、まちづくりや京町家保全・継承に関わる方々を対象に、特別講演「京町家を未来へ 路地の可能性を考える」を開催しました。

京都市は、市の中心部に木造密集市街地が広がり、建築基準法上は建て替えなどができないがゆえに、古い京町家が多く残されています。古い街区やそこに建つ京町家には、京都らしい風情や昔ながらのコミュニティが存在し、子育てや創作活動の場などにもふさわしい空間です。一方で、防災上の課題も多く、特に袋路における2方向避難の確保などが課題になっています。

第一部では、立命館大学の大窪教授より「路地と防災」と題し、基調講演をしていただきました。兵庫県豊岡市の出石重要伝統的建造物群保存地区を対象とした2方向避難路の確保の可能性についての検討と、京都市上京区の正親学区と出水学区の袋路の現状と特徴をもとにした、緊急避難ドアの有効性の評価と設置に関する提言についてお話しいただきました。

第二部では、京都市都市計画局建築指導部建築指導課より、路地再生に関する制度説明を行っていただきました。

いずれの場合にも、建物所有者や地域の皆さんのご理解やご協力が不可欠であり、そのための日頃からの防災に向けた活動が重要となることを、改めて感じる講演会となりました。

大窪健之氏

京都市都市計画局
建築指導部建築指導課

特別講演「京町家を未来へ 路地の可能性を考える」開催概要

- 開催日時　令和5年11月24日(金)15:30～17:30
- 会場　ひと・まち交流館　2階　大会議室
- 参加人数　約100名
- プログラム　第一部　基調講演「路地と防災」　講師：大窪 健之 氏 立命館大学理工学部環境都市工学科 教授
  第二部　路地再生に関する制度説明　講師：京都市都市計画局建築指導部建築指導課

✦ 鴨川の魅力ある空間創出に向けて

三条・四条間の夜間景観づくり実証実験

先斗町まちづくり協議会では、鴨川沿道の安心・安全の向上に加え、京都の魅力向上と新たな価値の創造に向けて、鴨川周辺の夜間景観づくりを提案され、これまで行政等と連携し、調査や実証実験を重ねられてきました。まちセンでは、夜間景観の専門家・長町志穂氏（P5で紹介）の専門家派遣を実施し、取組の支援を行っています。令和５年度は、納涼床が出て滞留者の多い夏（8/17）に、四条大橋周辺で1日のみの照明実験と、三条大橋の補修の完成に合わせ、1/16から1/22までの1週間、三条大橋周辺で実証実験を行いました。１月に実施した実験を中心に今年度の取組を紹介します。

1月の実証実験では、「夜の静けさを楽しむと同時に、くつろぎ、瞑想できるような川辺の空間創出」をコンセプトに照明計画が検討されるとともに、魅力的な空間づくりによる、人流の変化やゴミのポイ捨ての抑制効果、また、生物への影響などが検証されました。

暗がりが多い橋の周辺や川辺を、効果的な照明の設置により、人の目が行き届く空間とすることで、訪れた人が安心してくつろげる健全な集いの場となるだけでなく、水辺がより身近に感じられることで、空間の魅力がさらに高まることが期待できます。

そして、地域・行政・多様な主体の連携で進められてきた実証実験の結果を、京都の価値と魅力向上に向け、どのように整備につなげられるか、方策が検討されます。

歴史と文化が折り重なり、さまざまな個性を持つ地域のまちづくりを、まちセンは引き続き支援してまいります。

第30回　地域まちづくり・京町家の専門家紹介

あかりを通して幸せに暮らせる環境づくりを

まちセンでは多くの専門家の方々のご協力のもと、地域のまちづくりや京町家の保全・再生に関わる事業を行っています。このコーナーでは、豊富な経験や知識、また熱い思いをもって京都のまちに関わる専門家の方々をご紹介しています。

今回はこの方！

長町（ながまち） 志穂（しほ） 氏

株式会社LEM空間工房　代表取締役

都市の夜間景観計画やガイドラインの策定など、照明を核とする公民連携のまちづくりやイベント・パブリックアートなどに企画立案から関わる活動を行っています。

夜間景観づくり実証実験の準備

都市デザインとの出会い

京都工芸繊維大学の学生の頃は、現代美術が大好きで、屋外でのランドアートに関心を持っていました。卒業後、照明器具・住宅設備を扱うメーカーに就職し、照明器具のデザインだけでなく、ブランディングやマーケティングなどに携わりました。キャリアを重ねていく中で、自分の原点と言える空間デザインへの思いが強くなり、2004年に照明デザイナーとして独立し、照明設計を専門に取り組むことにしました。

同じ頃に、都市環境デザイン会議（JUDI）に参加させていただき、都市デザインについて多くの著名な先生から勉強する機会をいただきました。

都市デザインを学んだ視点から世界の街を見てみると、街にとって灯の価値が、とても大事にされていることに感動しました。2010年ぐらいから本格的にLEDが公共照明にも出てきて、世界の街はそこから激変していきました。当時の日本は、公共の照明は夜歩くためだけみたいなところがあり、日本でも灯の価値を高めていきたいと強く思いました。

魅力的な夜間景観へ

夜が魅力的な街に共通しているのは、その街らしさがにじみ出ているところです。例えば、イスタンブールは、2人通るのがやっとくらいの路地にレストランがあって、外壁にブラケット照明がポンポンと付いている。それが席のあかりとして落ちていて、そこに人の賑わいがあって、向こうにモスクが光っているみたいな、そんな土着の良さがあります。

建築のライトアップも非常に大事で、市庁舎やコンサートホールなど、まちのシンボルはちゃんとライトアップしておくべきです。

夜に素敵だと思う街はその街らしさが際立っている街です。その街らしいものが闇に沈んでいると、それは夜の思い出は無しということになってしまいます。京都は大丈夫かも知れませんが、夜が魅力的でなければ、他の街なら素通りされてしまうのではないでしょうか。

京都の場合は、やっぱり鴨川ですね。先斗町をはじめとする皆さんの活動は、本当に大事です。橋梁も、北は御池からでいいと思いますが、三条から団栗橋辺りまで川床もあって、エリアを決めて橋梁に光を入れていくと、街が全く変わってくると思います。

場所の声とあかりを結ぶ

照明デザインへの思いとしては、やはり全てに共通しているのですが、『場所の声を聴く』ということだと思います。私のプロジェクトで、まず最初にやることは、この、場所の声を聴いて、みんなが大事なものを見つけるということで、それでほぼ終わると言ってもいいのではないかと思っています。

そもそもあかり自体のチカラが凄くて、灯るだけで、人の心を温めて、あの真っ暗の中に小さなあかり一つでも安心したり、元気が出たり。震災とか災害が起きると特にそれが分かるのですが、あかりには、安心とか癒しとか優しさとか、あるいは人の命とか、生きているとか、そういうことを感じさせる何かがあると思います。

鴨川ライトアップの実証実験（8月）

表紙イラスト作者　（やまぐち たまえ）

アトリエ TAM 主催　**山口 珠瑛**

URL http://tam-y.com

絵本作家、イラストレーター。
京都生まれ。京都育ち。
京都教育大学　特修美術科西洋画卒業。
「町家えほん」「福ねこお豆のなるほど京暮らし」発売中。京の暮らしがわかるYouTube動画をつくりました。
「ふくまめ京暮らし」で検索してくださいね。

清水寺　青龍会（せいりゅうえ）
3月15日、4月3日、9月15日
京の東を守り、夜ごと清水寺の音羽の滝に水を飲みに来られる青龍さん。観音様の化身らしいぇ。
青龍会では18メートルの青龍が地域守護と除災を祈願して練り歩かはって勇壮やなぁ～。

祇園甲部　都をどり　4月1日～30日
今年の「都をどり」は明治5年から150回目なんやて～。芸妓さん、舞妓さんの華やかな衣装は、京友禅と西陣織りでみやびやねぇ。

藤森神社　藤森祭（ふじのもりまつり）　5月1日～5日
端午の節句発祥の祭りと言われている藤森祭。武者人形には藤森大神が宿ってはるんやて～。駈馬（かけうま）神事では手綱潜り、逆乗り、矢払い、横乗り、逆立ち、藤下がり、一字書きの7種類のアクロバット的な技が披露されて素晴らしいわ～。

京町家で見学会、セミナーを開催！

まちセンでは、京町家の魅力に触れていただく機会として、京町家を会場とした見学会やセミナーを開催しています。今回は、国登録有形文化財の仲家住宅にて、京町家に関わる専門家を対象とした見学会を開催し、京扇子大西常商店にて「京町家再生セミナー」を開催いたしました。

京町家見学会　国登録有形文化財　仲家住宅見学会を開催

外観

床の間

見学会の様子

国登録有形文化財の仲家住宅見学会を開催しました。仲家住宅は、大正5年（1916）頃築と伝わる高塀造の京町家です。

所有者からの活用相談に京町家継承ネットで対応して賃貸募集を開始しました。今回は、募集中にもかかわらず、所有者のご厚意により見学会を開催することができました。募集に携わっている不動産事業者や、日頃から京町家の保全・継承にご尽力いただいている学識者、大工、行政職員等の方々が参加されました。

見学会では、立命館大学の大場修先生から、「高塀造」としての文化財的価値についてお話いただき、京都市文化財保護課の石川祐一氏から、建物の特徴的な意匠、造作について、実際に建物の中を移動しながらの解説をしていただき、充実した内容の見学会となりました。

仲家住宅の特徴

仲家住宅は「高塀造※」としての標準的規模（間口5間．奥行7間）で、間取や意匠の構成要素をしっかり備えており、建築当初から大きな改変がない点で高塀造の代表事例といわれています。内部は、島原角屋（重要文化財）を参考にしたと伝えられ、座敷飾りや窓回りの随所に凝った意匠が見られ、大正初期における町家大工の高度な技量に触れることができます。

※高塀造とは、外観写真のように、通りに面して高い塀を建てた京町家の形式です。

● 仲家住宅見学会

日時　令和5年12月11日（月）10:30～12:00
講師　大場　修 氏
（立命館大学衣笠総合研究機構教授）
石川 祐一 氏
（京都市文化市民局文化財保護課
文化財保護技師）
会場　仲家住宅　京都市中京区

京町家再生セミナー　「京町家の四季 －京町家を通じて受け継ぐ暮らしの文化－」を開催

秋も深まった11月、京町家再生セミナー「京町家の四季－京町家を通じて受け継ぐ暮らしの文化－」を開催しました。

大西常商店は、築150年余りを経た京町家で、今も扇子の製造販売の場となっています。今回は、代表取締役の大西里枝さんに、京町家の保全を決心されたご家族やご自身の想いや、京町家を通じて受け継いできた京都の暮らしの文化についてお話しいただきました。質疑応答の際には、里枝さんのお母様で、京町家の保全・再生に熱心に取り組まれた大西優子さんにもご登壇いただき、改修工事当時の様子などもお話しいただきました。

京町家での四季折々の暮らしの文化を楽しみながら、その様子を広く発信されるなど、京町家とその暮らしに息づく文化の魅力を伝える活動に対して、会場からも熱心に質問が出されていました。

セミナー終了後は、優子さんのご案内で、普段は見ることができない京町家の内部を見学させていただきました。

講師の
大西里枝さん

セミナーの会場の様子

見学会の様子（右は
ご案内の大西優子さん）

景観・まちづくり大学　京町家再生セミナー

●「京町家の四季 －京町家を通じて受け継ぐ暮らしの文化－」

日時　令和5年11月30日（木）18:30～20:00
会場　京扇子 大西常商店（京都市下京区本燈籠町23（松原通高倉西入））
講師　大西里枝氏（京扇子 大西常商店 代表取締役）

私と京都
～守り続けることの大切さ～

日新電機株式会社　理事　総務部長
公益財団法人日新電機グループ社会貢献基金　事務局長
京町家まちづくりファンド委員会　委員
阪尻（さかじり）　茂之（しげゆき）　氏

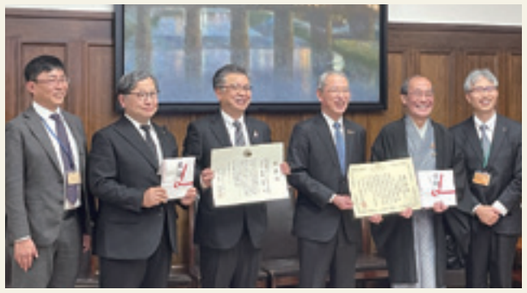
私は、京都の西、松尾山の麓、嵐山の旧家に生まれ育ちました。いまとなっては、エアコンが手放せないマンション生活に慣れ親しんでしまいましたが、当時は、暑い夏もそれなりに快適に過ごせるものであったかと思います。あちこち開け放たれた窓からは、打ち水で涼やかな風が通り、生垣や庭木の緑、虫の声など、五感で自然のやさしさを感じていました。四季折々の楽しみもそこにありました。暖かい春になれば用水路で小魚やトンボ捕り。夏は縁側でスイカをほおばり、裏山では早朝のカブトムシ・クワガタ採集。秋はコオロギの声を聞きながら実りを満喫。冬は庭のおくどさんで炊きあげたお米でお餅つき。さすがに、冬の寒さは身にしみました。朝は震えながらの洗顔に始まり、夜は五右衛門風呂で暖まった後、豆炭あんかで温かい布団にもぐりこむ。そのころの暮らしは、いまと比較してもとても不便である一方、自然とともにその恵みを感じながら、そこには、人間らしい豊かな生活があったのかもしれません。

現在、私は、右京区梅津の日新電機に勤務しています。大正6年に京都の地で創立して以来、電機を中心に産業のインフラづくりにかかわる事業を継続してこられたことの恩返しとして、平成29年、創立100周年を機に、日新電機グループ社会貢献基金を設立しました。その事業の柱の一つに「京都を中心とした歴史的文化財の保護」があります。日新電機は、昭和31年、文豪・谷崎潤一郎から、下鴨神社の境内、糺（ただす）の森に面する邸「潺潺※亭（せんかんてい）」を譲り受けました。その際、谷崎からは、「京都に来たときは見にいきたいので、できれば現状のまま使ってもらいたい」との要望があり、その趣や佇まいを変えずに持ち続けることを約束しました。谷崎自ら「石村亭（せきそんてい）」と名づけていただき、以降、半世紀を超えて、文化的価値をもつ貴重な資産として守り、活かし続けてきました。その邸を舞台とした小説『夢の浮橋』の挿絵には、当時の母屋や庭が描かれていますが、彼が愛したその趣はいまも変わらず残っています。日本文学者であった故ドナルド・キーン先生は、谷崎がこの邸に在住した間、幾度も足を運んだとのことでしたが、生前に来亭の際、谷崎からいただいたという浴衣をお召しになり、母屋の縁側で柔和に微笑み寛いでおられた姿は、いまも私の貴重な思い出になっています。

日新電機が生まれ育った私の大好きな京都は、日本文化を象徴する都市であり、そこには神社や寺院といった数多くの歴史的文化財があり、また、明治時代以降の木造建築である京町家も貴重な文化的資産として存在しています。過去をしっかりと学びながら、人と自然の変化のなかで永く守り続けてこられた、そうしたかけがえのない財産に、新しい風を吹きこみながら後世に継承していくこと、微力ながら楽しみつつ関わり続けていこうと思っています。

※潺潺：水の流れる様子、またはせせらぎの音を意味する。

寄附受納式　公益財団法人日新電機グループ社会貢献基金よりご寄附



（公財）日新電機グループ社会貢献基金より、京都の文化財保護へのご協力として、京町家まちづくりファンドへ50万円、京都市へ250万円のご寄附をいただきました。日新電機グループ社会貢献基金の齋藤成雄理事長、門川大作前京都市長等が列席された寄附受納式が執り行われ、今回で7回目となるご支援に、髙田光雄当財団理事長から感謝の意をお伝えしました。

写真：令和５年12月11日寄附受納式（左から、竹内京都市都市計画局長、髙田当財団理事長、阪尻日新電機グループ社会貢献基金事務局長、齋藤日新電機グループ社会貢献基金理事長、門川前京都市長、砂川京都市文化芸術政策監）